

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

(和文) 啓蒙とフランス革命・I -1793年の研究

(英文) The Enlightenment and the French Revolution : A Study of the Year 1793

2. 研究代表者

(氏名) 富永 茂樹

3. 研究期間

平成22年4月から平成25年3月まで（3年間）

4. 研究目的（400字程度）

18世紀のヨーロッパで成長をつづけたいわゆる「啓蒙哲学」は、世紀の終わりにいたりひとつの大きな転機を迎える。すなわちフランス革命であり、ここには啓蒙思想が革命の思想と転化すると同時に、革命の進展が啓蒙の観念を変形させてゆく過程を見て取ることができるであろう。本件研究は桑原武夫教授が戦後間もなく開始した『ルソー研究』や『フランス革命の研究』以来の当研究所における共同研究の成果を踏まえたうえで、あらためてフランス革命期、とりわけその絶頂期ともいえる1793 - 94年のモンターニュ派独裁期に目を向けることにより、ある観念を現実の政治=社会のコンテクストのなかに位置づけるとともに、他方で政治的なるものを意識=文化とのかかわりをとおして理解することを目的としている。そうした目的に到達するために、まずは当時のテキスト(ロベスピエール、サン=ジユストなど)を読み解き、そこからいくつかの問題を発見することが試みられる。

5. 研究成果の概要（400字程度）

1793年から94年にかけて国民公会においてなされた演説の数の膨大さにくらべるなら、共同研究会読で採りあげたテキストの数はごく限られたものであったことは否定できない。このことはしかしながら、会読がそれぞれのテキストにおける表現を一字一句にわたり細密に検討したこと、また内容(言表されたこと)について詳細かつ幅広い観点(政治=社会的状況、話者の経歴と思想)からの解釈を行ったことに起因している。これらの議論をとおして、当時の内外・外の戦争、経済的危機などにかかわる一種の「例外状況」の認識、そのような状況への革命家たちの対応のかたち、言語と行動の両面にわたる「暴力」の行使の様態など、いくつかの問題が明らかになり、18世紀の啓蒙思想がフランス革命期にどのように受け止められ、さらに政治的実践(革命裁判所の開設、公安委員会の設置など)のなかでどのように変貌していったのかを理解する重要な手がかりを得ることができた。また会読とは別に、参加者個人による研究報告、最近のフランス革命研究の文献の紹介を行い、あわせてフランス人研究者の来日した機会をとらえて講演会を開催することで、新た

な知見と視野を獲得することができ、会読をとおして明らかになったことがらを補強することができた。

6. 本研究課題に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

2010年11月19日 ジャン=クロード・ボネ公開講演会

« Naissance de l'historien-artiste : Chateaubriand, Mercier, Michelet. Visiteurs du Musée des monuments français de Lenoir »

2011年4月22日 セリーヌ・スペクトル公開講演会

« Montesquieu et la crise du droit naturel moderne »

2011年4月29日 公開合評会「富永茂樹『トクヴィル—現代へのまなざし』をめぐって

2012年4月13日 ベルトラン・ピノシュ公開講演会

« L'opinion publique en Révolution française »

2012年10月23日 パトリス・ゲニフェー公開講演会

« Violence et Terreur dans la Révolution française »

2013年1月25日 ブリュノ・ベルナルディ公開講演会

« Remanence d'une figure rousseauiste : opinion publique, mœurs et censure dans le discours de Jean Debry du 23 septembre 1794 »

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

まずは会読の成果として、扱った演説すべての、ほぼ完全に近い翻訳原稿を残しているの
で、これらに修正を加え、扱うことのできなかつたその他の重要な演説の数編を新たに翻
訳して、資料集『恐怖のディスクール』（仮題）を『人文学報』（京都大学人文科学研究所紀
要）として公刊する。なお、フランス革命関係の資料としてはすでに京都大学人文科学研
究所共同研究資料叢刊・第6号に富永編『資料 権利の宣言—1789』（2001年3月）があり、今回
の刊行はこれにつづくものとなるはずである。また平成25年4月からは「啓蒙とフランス
革命・II - 恐怖の研究」と題する共同研究を新たに立ち上げて、本研究から得られた知見
を踏まえて、恐怖政治を政治哲学・社会学・文学さらには自然科学の立場から総合的に研
究する共同研究を進める。

（この報告書は本研究所HPなどで公表されます。）